

第3回 教育改善交流i * See2006 シンポジウム・ワークショップ参加報告

首都大学東京都市教養学部都市教養学科人文社会系1年生
山崎 文理

平成18年9月9日に岡山大学津島キャンパスにおいて岡山大学・教職員教育改善委員会主催の「第三回教育改善学生交流i * See2006シンポジウム・ワークショップ」(以下、シンポジウムと表記)が実施されました。首都大学東京都市教養学部都市教養学科人文社会系一年山崎文理は本学のFD委員会事業への参画の一環として上記のシンポジウムに参加したので以下に報告します。

◆ 当日の経過

シンポジウムの活動は午前の部と午後の部に分けられます。午前の部ではFD活動において学生の参加が進んでいる6つの大学からの発表者によって、学生を主体とした授業参画の試みが発表されました。発表大学・タイトルは以下のとおりです。

横浜国立大学：学生が企画・運営する授業実践

立命館大学：先輩学生と後輩学生による学生相互の学び合い

大阪大学：京大阪大合同イベントの挑戦

和歌山大学：生徒参加型授業参加プロジェクト

愛媛大学：SCV(Student Campus Volunteer)とは何か？

長崎大学：LTの人生～長崎大学における
学生参画活動～

学生が主体となって授業を企画するもの、先輩・後輩間の交流を促し授業の活性化を図るもの、教授・学生間にメールや掲示板による意見交換窓口を設け、授業についての直接的な対話ができるようにする試み等、それぞれに特色のある企画でした。

午後の部では午前の部の各大学の発表を受け、参加者それぞれが6つの大学のうちで一番興味を持った大学を選び、各大学のグループに分かれ、その大学の学生授業参画についてのより踏み込んだ議論を行いました。

私は横浜国立大学(以下、横国大と表記)の部会を選んだので、横国大グループの議論を午後の部の活動内容として記載したいと思います。

横国大は、授業への学生参画の方法として「ラベルワーク」という手法を「参画授業論」という授業の中で試みていました。具体的な授業の進行過程は、

1. 授業においての課題(例えば参画授業論の場合は“学生が求める授業とは何か？”等)に対して参加

学生が一人一人ラベルと呼ばれるカードに意見と自己の名前を書く

2. 集めたラベルを同じような意見ごとに貼り分けて、その各意見を叩き台として議論を交わす。
3. 議論の結果形成された意見を再度ラベルに書いて貼り分け、更に議論を深めてゆく

といった形式のものです。横国大グループでは実際にこのラベルワークを行いながら“理想の学生の授業参画の形とはどういったものか、又その手段としてラベルワークという手法を用いる上で、どのようなメリット・デメリットがあるか”という議題で議論が交わされました。「自分の意見を責任もって述べ、又相手の意見を尊重するというラベルワークの精神は学生主体の授業を成立させる上で、更には学生個人の人的成長を促す上でも有意義なものだ」という意見から「ラベルワークは全ての授業で取り入れられる手法ではない」といった意見まで、グループに加わった学生・教授・事務それぞれの視点からの意見が交わされ、とても活発な議論となりました。FD活動の可能性の大きさを改めて実感した討論でした。

◆ 今後の学生参画を模索する上で

今回のシンポジウムでは発表の間や議論中のグループ内等で参加した各大学の方々と意見を交わす機会に恵まれました。他大学の方々と交わした会話・聞くことの出来た各大学のFD活動の中で特に印象に残った事を2つ述べておきたいと思います。

1つは立命館大学の大学教育開発・支援センター教授である木野茂先生との会話です。午後の討論で同じ班になった際、木野先生から現在の日本の大学のFD活動について色々と教えて頂いたのですが、その中でも特に興味深い話として「現在の“学生主体の授業参画”には大きく分けて二つの種類がある」というものがありました。一つは教員の側の教育方法の工夫により、学生が授業内で能動的に活動できるような環境を作るもの、もう一つが授業の企画から学生が関わり、より良い授業形態を模索していくもの、だそうです。そして両者において言えるのが、“学生参画の手法の工夫は学生の能動的な授業参画を促し、又それを生かすものであり、学生の強制参加を強いるものになってはならない”とのことでした。これからは教員と学生双方の意識改革が必要なのではな

いかと強く感じました。

もう1つは、各大学によって、FD活動の学生側の主体となる組織が様々に異なるという事です。岡山大学のように各学部から人が集まる制度をとっているものもあれば、愛媛大学のように有志の学生で構成されているところもありました。学生側の組織形態は、学生参画としてのFD活動の目的や手法に合ったものを考えつつ、これから更に議論していくべき課題であるように思いました。

余談ですが午後の全体集會中、「愛媛大学のSCV活動(現在は学生主体)は、発足は大学主体だったのですよ

ね？」という確認の質問に、愛媛大学の先生が「何もないところからの手探り状態での活動開始だったのだからしょうがない」と反論する一幕がありました。私は、現在の首都大学における学生のFD活動参画はまさにこの手探り状態にあると考えます。学生参画のための学生組織の結成や教員・学生合同のFD活動を始める際には、構内の目立つところに表示を行う・自治会を通じて伝達する等、事前に学生全体にFD活動のアピールや啓蒙をまず真っ先に行う必要があるのではないかと思いました。

<参考資料>

第3回 教育改善学生交流i * See2006 シンポジウム・ワークショップ 参加者募集

こんにちは。岡山大学学生・教職員教育改善委員会の井出治仁です。

一昨年、昨年の学生交流には沢山の方にご参加いただきまして、ありがとうございます。i * See2005では、「学生力 \square 教育改善」をテーマとし、昨年は、学生の求める新しい授業を話し合い、創っていきました。その際、コンテストで優勝した授業案「知ってるつもり？コンビニ」は今年より岡山大学で授業としてスタートしました。

さて、今年も学生交流を実施する運びとなりました。教育を受けるのは学生なのだから、教育改善の場に学生がいてこそ真の教育改善であると私たちは考えています。そこで、今年は大学教育における学生参加・参画活動の改善について考えます。グループに分かれ、学生・教職員で教育改善を語り合っていただきたいと思います。普段なかなか知ることではない他大学の現在の活動を知り、改善案を模索することにより新たな可能性を発掘していけるのではないのでしょうか。各大学の教育改善に新たな風を吹き入れていただきたいと思います。

以下に、応募方法や、簡単な内容などを載せております。皆様お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。ご不明な点多々あると思いますので、ご質問等ございましたら岡山大学学生・教職員教育改善委員会までメールでお尋ねください。

i * See2006 実行委員長 井出治仁
経済学部 2年生

日時：9月9日（土） A.M10:00～
場所：岡山大学 50周年記念館他
主催：岡山大学学生・教職員教育改善委員会
参加費：無料

(岡山大学H. P.より)